

2012年11月2日

独立行政法人 国際協力機構
理 事 渡 邊 正 人 殿

環境社会配慮助言委員会
委員長 村山 武彦

諮問（平成24年8月22日付 JICA(ER) 第8-22001号）に対する答申について

JICA 環境社会配慮ガイドライン（2004年4月制定）2.4の規則及び環境社会配慮助言委員会設置要項第9項に則り、諮問「アフガニスタン国 カブール首都圏緊急水資源開発プロジェクト」（開発計画調査型技術協力）にかかる環境社会配慮におけるドラフトファイナルレポートについて、別紙のとおり答申いたします。
コメントの種類に応じて、答申内容を協力事業に反映するよう、お取り計らい下さい。

アフガニスタン国 「カブール首都圏緊急水資源開発プロジェクト」
(開発計画調査型技術協力)
ドラフトファイナルレポートに対する答申

答申案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・ 日時：2012年9月3日(月) 14:00～16:56
- ・ 場所：JICA 本部 (会議室：2階 212会議室)
- ・ ワーキンググループ委員：石田委員、作本委員、原嶋委員、日比委員
- ・ 議題：アフガニスタン国 「カブール首都圏緊急水資源開発プロジェクト」ドラフトファイナルレポートについての答申案作成
- ・ 配付資料：
 - 1) 「Feasibility study on urgent water resources development and supply for Kabul metropolitan area」(英文)
 - 2) 「Draft EIA report for Panjshir fan aquifer development」(英文)
 - 3) 「スコーピング案に対する答申への対応」(和文)
- ・ 適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2004年4月)
(助言委員会設置要項第9項に基づき、助言委員会が審査会に代わり報告を受ける)

全体会合(第29回委員会)

- ・ 日時：2012年10月1日(月) 14:30～17:34
- ・ 場所：JICA 竹橋合同ビル(会議室：8階 研修室8B)

上記の会合に加え、メール審議により答申を確定した。

答申

案件全体

1. カブール首都圏開発計画調査の結果を踏まえ、3つのサブ事業でF/S、プレF/S、F/Sのレビューと、調査内容が異なる理由を明示すること。
2. 伝統的な水利権の有無について調査を行い、水源地住民の同意を得るなどの社会配慮を行うこと。
3. ステークホルダー協議への女性参加者数および女性による意見/発言を明確に記載すること。また、女性の参加・発言の促進のために講じた措置についても記述すること。

パンジシール扇状地地下水開発

4. 集水埋渠の方式をとった場合に、塩類集積や砒素の問題が発生しないかどうか確認すること。
5. 深刻な干ばつの年には、地下水位低下が既存の水利用に負の影響を及ぼすことが予測されており、ステークホルダー協議においても住民からの懸念が示されている。深刻な干ばつの年における具体的な対策について確認すること。
6. 地下水取水が水位や水バランスに悪影響を及ぼす可能性を否定できないので、継続的なモニタリングの体制作りを提案すること。
7. パンジシール扇状地の地下水取水による下流域の生態系評価にあたり、水量の変化をより受けやすいと考えられる動植物のリスト化と想定される影響、その緩和策を報告書に反映させること。
8. 取水施設、ポンプ場、貯水池用に取得する土地の利用状況について確認すること。

サラングム、グルバハルダム事業

9. サラングム、グルバハルダムのEIAについてJICAが実施を支援する際には、特に以下の点に留意するよう提言すること。
 - ・ 流域上下流の生態系への影響（魚道を含む）
 - ・ ダム湖からのメタン発生
 - ・ 導水管による自然環境への影響
10. サラングム、グルバハルダムにおいて住民移転が発生する場合には、十分な対策と配慮を行うよう提言すること。
11. サラングム、グルバハルダムの建設にあたっては、国際河川からの取水に当たっての紛争を予防するよう留意すること。

以 上